

年間 15 主日『旅の荷物は最小限にしないで』（マルコ 6.7-13）

－「耐震」から「免震」人生へ－

イエスは使徒を宣教の旅に送り出す時に、「余分なものを持って行くな、最小限にしないで」と教えました。この言葉は、「人生」という私たちの旅にも当てはまります。旅行と旅の違いは何でしょうか？旅行は、最初から最後まで計画され、必要なものをすべてトランクに積み込んで、行程を管理します。一方、旅は、行く先々で思いがけない出会いがあり、食事や宿のお世話を受け、恩返しに何らかの奉仕をして、先に進みます。イエスは「人生は旅行ではなく、旅である」と言っているのです。食事は持って行くな、宿のことは心配するな、現地で世話になればいいのです。あなたたちは、み言葉を告げることで奉仕すればいいのです。人生は、持ちつ、持たれつです。

現代人は、何を食べようか、どこに泊ろうか、何を着ようか？心配ばかりします。すべて準備しないと安心できません。人生を旅ではなく、旅行だと考えているみたいです。すべてを自分の管理下に置いて、人生を思い通りにしたいと望んでいるのでしょう。それは、不安を解消するために、津波を防ぐ高い高い防波堤を築くのに似ています。強い地震でも倒れない、コンクリートと鉄筋で固めたシェルターを建てるのに似ています。頑丈ですが住み心地は最低です。

それでも、大きな災害があれば安全とは言えません。安心、安全のために壁に囲まれ、薄暗い家で一生を過ごすことが本当に幸せでしょうか？

どれだけ強くしても、自然の脅威の力に勝つことは出来ません。日本では古来より自然と戦うのではなく共存する智慧がありました。たとえば、耐震ではなく免震という発想です。五重塔に採用されています。どんな地震に遭っても倒れていません。地震に対抗するのではなく、一緒に振動して、力を逃がすのです。人生にもこの発想が必要です。現代人は、苦しみをもたらすものに対抗して、それをゼロにしようと努力をしています。病気、事故、老化、障害などを否定して、人生から追い出そうとします。苦しみを恐れているからです。ネガティブな発想しかないみたいです。

時には、苦しみに身を任せて、一緒に揺れてみることも必要です。相手を論破するだけではなく、寄り添って一緒に歩くことも大切です。反対する人を排除するより、補い合う関係を築く方が尊いのです。自分が楽しむだけの旅行より、人々と出会う旅こそが真の人生になるのです。人に勝つ人生ではなく、共に生きる人生の道を選択しましょう。■2024/07/12（文責：小寺神父）